

# 国語科学習指導案

I 単元 伝われ！ぼくの考え、わたしの考え（『しりょうから分かる、小学生のこと』）

## II 考察

### 1 教材観

#### (1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

##### ①知識及び技能

話の大事な箇所を伝えたり聞いたりするための話し方、聞き方に関わる知識や、それをプレゼンテーションの場で用いる技能

##### ②思考力、判断力、表現力等

話の大事な箇所を明確にし、理由や事例を用いて話す内容を考える力や、話し方に気を付けてその内容を表現し、聞き手に伝える力

##### ③学びに向かう力、人間性等

聞き手への伝わり方を意識して論理的に伝えたり、話し手に同意や共感等を示しながら聞いたりする等、相手意識を明確にして積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度

#### (2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(1)

イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くこと(1)

イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること。

#### (3) 単元の価値

本単元では、自分たちの実態を捉えて今後の生活改善につなげるために、3年生の生活に関わる表やグラフを基に分かったことや考えたことについて、他のクラスの友達にプレゼンテーションをする学習を行う。その価値は以下のとおりである。

プレゼンテーションは、分かったことや自分の考えたことを目の前の聞き手に話す言語活動である。話し手は、話の大事な箇所を伝えるために、聞き手の反応を見て声の大きさや速さを変えたり、間を取ったりするなど、話し方を工夫することができる。また、表やグラフといった資料を指し示しながら話す際、話し手は聞き手に視線を向けるために、資料や原稿を見るタイミングを意識するようになる。聞き手は、話の大事な箇所を捉えるために、話し手や資料へ視線を向けたり、うなずいて同意や共感等を示したりしながら聞けるようになる。それらのことから、他のクラスの友達にプレゼンテーションを行うという活動を設定することは、話の大事な箇所を伝えたり聞いたりするための話し方、聞き方に関わる知識や、それをプレゼンテーションの場で用いる技能を身に付けることにつながる。

本単元ではプレゼンテーションの資料として、表やグラフを用いる。項目ごとの具体的な数字や順番が示された表やグラフを用いることは、子どもたちが表やグラフの中の具体的な数字や順

番、またはそれら複数の情報から見いだした関係性を手がかりに、自分の考えをもつことにつながる。そして、話す内容を決める際には、もった考えの中から特に聞き手に伝えたいことを選ぶこととなる。そのため、話の大事な箇所を明確にし、理由や事例を用いて話す内容を考える力や、話し方に気を付けてその内容を表現し、聞き手に伝える力を養うことにつながる。

また、プレゼンテーションの資料は、3年生に実施したアンケート等を基にして作成する。子どもたちは自分たちの生活に関わる資料を用い、生活を振り返って今後の改善に役立てようという意欲をもって、クラスの友達と協力しながら原稿修正や発表練習を繰り返し行ったり、他のクラスの友達にプレゼンテーションを行ったりすることができる。そのことが、相手意識を明確にもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことにつながる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、3年「ぼくらの学習発表会」(『つたえよう、楽しい学校生活』)における、学習発表会に向け、進行に沿って意見の共通点や相違点を考えながら話し合う学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、3年「みんなでできる遊びを聞き合おう」(『よい聞き手になろう』)において、話し手が話した体験や興味のあることについて、聞き手がさらに知りたいことを質問する学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 友達の体験したことについての話を聞き、それに対してさらに知りたい情報を質問することができるようになってきている。そのような子どもたちが、資料を指し示しながら行うプレゼンテーションの話し方や、話し手の話し方を確かめながら同意や共感等を示して聞く聞き方について考えることができるよう、教師が実演しているプレゼンテーションのモデル映像を用意する。
- ② 自分の体験について、聞き手の反応を確かめながらスピーチができるようになってきている。そのような子どもたちが、考えの根拠となる情報を視覚的に指し示しながら、話の大事な箇所が聞き手に伝わる話し方を追究できるよう、話し手と聞き手の立場を交代しながら、話し方や聞き方を工夫してプレゼンテーションの練習を繰り返す活動を設定する。
- ③ 友達の聞き方のよさを、自分の聞き方に生かそうとすることができるようになってきている。このような子どもたちが、相手意識を明確にして積極的に話したり聞いたりしたいという思いをもつことができるよう、3年生の生活に関わるアンケートを基に作成した表やグラフを複数用意する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 個人の課題を意識して、プレゼンテーションの原稿修正や発表練習をグループ内で見合い、気付いた点を話し合うことを通して、話の大事な箇所を伝えたり聞いたりする話し方や聞き方のよさに気付いたり改善したりすることができる。
- 2 準備 発表原稿用紙、アドバイスカード、レベルアップカード、タブレット
- 3 本時想定した躍動をする子どもの姿

友達から自分の原稿及び発表のよさや改善策のアドバイスを受けたり、友達の原稿及び発表のよさや改善策をアドバイスしたりしながら、プレゼンテーションを改善するための原稿修正や発表練習に継続的に取り組んでいる。

4 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿作りや発表の練習をして、大事なことが相手に伝わるレベルの高い発表にしていくな。</li> <li>・前は原稿が完成したから、今日は聞き手の方を見て発表できるようにしたいな。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">めあて グループで原稿や発表の仕方を見合い、発表をレベルアップさせよう。</p> <p>2 プレゼンテーションの練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作文の授業でやってみたくて、1人1人が発表の最初で、「次に」「さらに」を入れると、話のまとまりが聞き手に伝わりやすくなるよ。</li> <li>・3人の原稿ができたね。聞き手に向けて上手に発表できるか確かめたいから、発表練習コーナーに行って練習してみよう。</li> <li>・今の話し方だと大事なことが伝わりにくから、大事なことを言った後に1秒くらい間を空けるといいよ。</li> <li>・僕は、資料を指す時に体が後ろを向いてしまうと友達に言われたよ。もう少し体を聞き手の方に向けてもいいのか。確かにそうかもしれないな。</li> <li>・モデルの映像を見直してみたら、話し手はずっと聞き手に体を向けて話しているな。資料を指す時にも、ほとんど体が後ろを向かないね。</li> <li>・言い間違えたくないけど、メモばかり見ていると聞き手の方を見られないな。言うことをなるべく暗記することと、体を聞き手に向けたまま資料を指して発表できるように練習しよう。</li> </ul> <p>3 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手に体を向けた発表を意識できたから、次は原稿を暗記して発表したいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時の学習の見通しをもてるように、学習課題と課題の解決状況を問いかける。</li> <li>○1人1人の解決状況に応じた課題意識をもって学習に取り組めるように、前時の振り返りを基に、本時に特に取り組みたいことをレベルアップカードに書くよう促す。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">評価項目</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の発表のよさや改善策を記述したり、発表の改善に生かしたりしている。 &lt;活動・レベルアップカード②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構成や言い回しのよい点や改善点を確かめられるように、それぞれの原稿をグループ全員で声を合わせて音読するよう促す。</li> <li>○個の課題に応じて原稿修正と発表練習を繰り返せるように、机を用いる原稿修正の場と資料を提示して発表練習する場を分けて設ける。</li> <li>○話し方や発表内容の課題に応じて具体的によさや改善策を伝え合えるように、アドバイスの視点や例を示したアドバイスカードを用いて伝えるよう促す。</li> <li>○互いの発表のよさや改善点を伝え合えるように、グループで話し手と聞き手を交代しながら発表練習するよう促す。</li> <li>○必要に応じて発表の仕方のモデルを確かめられるように、モデルの動画を保存したタブレットを用意する。</li> <li>○互いの発表やアドバイスを改善に生かす意識を継続してもてるように、原稿修正や発表練習を繰り返し行っているグループを称賛する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時に発表が改善したことや次時への課題を実感できるように、三つの柱に沿った視点で本時の振り返りを書くよう促す。</li> </ul>

指導と評価の計画（全10時間）

目標	理由や事例などを挙げながら話の大事な箇所を明確にして話したり，大事な箇所を感じ取りながら聞いたりすることができる。			
評価 規準	(①知識及び技能) 資料を指し示しながら聞き手を見て伝える話し方や，話し手に同意や共感等を示しながら聞く聞き方について気付いたり，行ったりしている。 (②思考力, 判断力, 表現力等) 話の大事な箇所が相手に伝わるように，資料を基に理由や事例などを挙げて，自分の考えを話している。 (③主体的に学習に取り組む態度) 相手意識をもち，大事な箇所が相手に伝わるように進んで発表資料を作ったり，発表したりしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つか かむ	1	○プレゼンテーションのモデルを見て気付いたことを話し合い，「3年生の生活を振り返るために，資料から分かる大事なことが伝わるプレゼンテーションをしよう」という学習課題をつかむ。	○資料を指し示しながらプレゼンテーションをするときの話し方や話す内容の工夫に気付けるように，教師が実演しているプレゼンテーションのモデル映像を用意する。	◇モデル映像から気付いた話し方や話す内容の工夫について，発言したり記述したりしている。 <学習プリント①>
	1	○用いる資料を選び，発表のグループを編制する。	○興味にあった資料を選べるように，3年生のアンケートを基に作成した表やグラフを複数用意する。	◇発表に用いたい資料を選んでいる。 <学習プリント③>
ふ か め る	1	○資料から分かることをグループで話し合い，発表原稿を作成する。	○話の大事な箇所を明確にしながらか発表原稿を作成できるように，モデル映像の発表原稿に文章構成の説明を加えたものを用意する。	◇資料の情報を基に，話の大事な箇所を明確にして発表原稿を作成している。 <発表原稿②>
	2	<b>○グループごとに練習し，発表原稿や発表の仕方を改善する。(本時2/2)</b>	○グループの課題に応じて，発表原稿の修正をしたり，発表の仕方の練習をしたりできるように，原稿作成コーナーと発表練習コーナーを設ける。	◇自分の発表のよさや改善策を記述したり，発表の改善に生かしたりしている。 <活動・レベルアップカード②>
	2	○クラスで中間発表会を行い，発表のよい点や改善点を伝え合う。	○聞き手を意識して発表を試すことができるように，クラスの友達を相手に，グループで発表する場を設ける。	◇他のグループの発表のよい点や改善点を具体的に指摘している。 <レベルアップカード②>
	1	○グループごとに練習し，発表原稿や発表の仕方を改善する。	○前時の感想やアドバイスを基に，発表原稿や発表の仕方を修正できるように，発表練習コーナーと話し合いコーナーで，再度グループで改善策を話し合う場を設ける。	◇アドバイスや他のグループのよいところを参考に，グループの課題を改善している。 <活動・レベルアップカード②>
ふ り か え る	2	○他のクラスの友達にプレゼンテーションを行い，学習を振り返る。	○これまでの学習の成果を確かめられるように，プレゼンテーションの聞き手である他のクラスの友達から評価を得る場を設ける。	◇他のクラスの友達からの評価を基に，学習の成果について発言したり記述したりしている。 <発言・レベルアップカード③>